

令和7年度

藍住南小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ・学習指導要領を踏まえた指導方法と評価の工夫改善
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現

校長

元木誠子

学力向上推進員

城所絵里

【小中連携における共通の取組】

ICTの効果的な活用と話し合い活動の充実により、児童生徒の学力向上を図る。

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字・計算やICTの基礎的・基本的な技能について、学年相応の力が付いてきつつある。 ●語彙力が乏しく、読解力や聞き取る力、文章を書く力が不足している。 ●読書量が少なく、選ぶ本も偏っている。	①語彙数が増え、正しい言葉や漢字で読んだり書いたりすることができる。 ②学年に応じた原稿用紙の使い方を知り、文章を正しく書くことができる。 ③各教科の単元テストで、低学年は8割以上の児童が正答率80%、中・高学年は7割以上の児童が正答率75%を超えるようにする。	①学習タイムや授業の中で繰り返し、漢字・計算やICTの基礎的事項を取り入れ、定着を図る。 ②低学年は、視写教材を使用する。また、作文帳による日記指導やNIEを取り入れることで、作文の基礎的事項の定着と、授業の中で学習したことを生かす力をつける。 ③音読・計算や週末読書、NIEを継続的に取り入れ、読解力や語彙力を養う。国語の授業で学習する並行読書の本を準備し、読書環境を整える。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学年の発達段階に応じて少しずつICTを活用できるよう取り組んでおり、高学年は、スピーチや発表、振り返りなどで、ICTを効果的に活用することができる。 ●全体の中では自信が持てず、自分の考えを表現できる児童が少ない。	①目的に応じて、理由を明らかにしながら、自分の考えや思いを適切に文章に表現することができる。 ②相手の考えと自分の考えを比べながら聴き、考えをまとめたり伝えたりすることができる。 ③磨えたことや伝えたいことを、適切な音量や速さで話すことができる。	①様々な形態で話す場を多く設け、話す経験を多く持たせる。 ②思考を整理するツールとして、ICTやホワイトボードを活用していく。 ③理由を添えて自分の考えを述べたり、学びの記録を残したりするためにノートも活用していく。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ほとんどの児童が「あいなん学習ルール」を意識して行動できている。 ●ふりかえりの際に、単純な表現で終わってしまう児童もいる。 ●自主学習について定着はしつつあるが、取り組み方に差がある。	①単元ごとのふりかえりを学年に応じた形で行うことによって、主体的に学習することができる。 ②辞書を積極的に活用して、学習に活かすことができる。 ③自分のめあてを持って自主学習に取り組むことができる。	①学年の実態に応じたふりかえりの手引きを作成し、単元や授業のふりかえりをさせる。 ②8年生から個人持ちの辞書を活用させることで、言葉に関心を持たせる。 ③「自主学習のめあて集」や自主学習ノートの例を配布し、活用することで、主体的に学ぶ習慣をつけさせる。			